八郷広報

発行所
八郷町役場
茨城県新治郡八郷町
大字柿岡2009
電話 4番・104番
印刷所
石岡市寺木町
飯島印刷所

戸数と人口（10月末）

世帯数		5,720
人口	男	16,144
	女	16,865
	計	33,009

戦歿者の合同慰霊祭

盛大に執行さる

町では十一月三日の文化の日に、高友丸山の殉国の碑前に祭壇をもうけて、全町の殉国者一、一四五柱の慰霊祭をおこなつた。

この日、絶好の秋日和にめぐまれ、招待された千六十七名の遺族と、来賓多数の参列があり、盛大に執行された。

大槻町長は式後、〃八郷町として本日才一回の慰霊祭を執行出来てまことにうれしい明年からは町の年中行事として、毎年一回は必ずおこなつて、戦歿者の霊をなぐさめ、そのいさおをしのんで町の発展のたすけとしたい〃と挨拶した。

（写真は殉国の碑に詣でる遺族たち）

ひと

慰霊祭に列して

菊薫る文化の日、丸山殉国の碑前において戦歿英霊顕彰奉慰の大式典が盛大裡にとり行われた。

当日この盛儀に列した遺族の一人である私は、町民各位の深いご理解とご厚遇に対し、感謝の意を表するものである。

云うまでもなく祭費は尊い血税からまかなわれたものであり、町民各位のご厚情の発露でもある。然るに遺族の一部には受付直後、或は式中途で退場帰宅するような心なき行動があつたことを同じ遺族としてまことに遺憾に思う。

厚遇に対し、忙しい、用事があるなどで自我的行動がとれるものだろうか。英霊の肉親として、なき霊に又町民各位に対し、よく反省し且つ陳謝せねばなるまい。同じ立場にある遺族として敢えて苦言を呈する次才である。

（一遺族）

靖國の子らすこやかに

遺児激励大会ひらく

去る十月二十三日、茨城県愛の運動協議会（会長いはらき新聞社長後藤武男氏）茨城県、八郷町の三者共催による遺児激励大会が、柿岡公民館でひらかれた。

この日は協議会より後藤会長、県より柴田世話課長、町より大槻町長が出席、多数の来賓も参列し、全町の小・中学生の遺児一二〇名を招待して、それぞれはげましと、なぐさめのことばがあり、柿岡中の岡崎常男君、芦穂中の信田武子さんの、母の愛にはぐくまれて育つてきた切々たる体験発表ののち、協議会より記念品、町よりお母さんへのおみやげが贈られ、柿岡中の渡辺溶君が遺児を代表してお礼をのべ、感激にみちた大会であつた。

慰霊祭に参列して

瀧田玉水

殉国碑　桜紅葉に　映えて居り
秋日和　祭文　杜にこだまして
祭文に　覚悟新たや菊の前
菊の前　ぬかずく心　古墳まで
木の実落つ
古墳荒廃に涙する
肩おとす
喪服に似合ふ木の葉髪
草虱　静かによけし　喪服かな

（遺児大会会場の遺児たち）

統合小幡小学校

建築方針きまる

町では十月二十五日、臨時町議会をひらき、統合小幡小学校の建築方針をつぎのようにきめた。

建築する建物は、
校舎＝木造厚型スレート葺、二階建新築一棟、三〇五坪五合
便所＝新築一棟、一四坪
使丁室＝新築一棟、一〇坪
渡廊下＝新築二棟、一五坪五合
合計　三四五坪

で、これに要する工事費は一千二十万円以内とする。その財源は、国庫補助二百九十五万八千円、起債四百万円残額は、自己財源をあてるものとし、指名競争入札による請負工事で、今年度中に完成する。

常洋建設が落札

町では小幡小建築につき、町議会の議決にしたがえ、常洋建設・柴山土建・山崎工務店・細谷建設の四業者を指名十一月六日競争入札の結果、九百七十五万円で常洋建設が落札した。

敷地は町の手で、あらましは地ならしもできているので、早速建築にとりかかる。

八郷高校上棟

八郷高校校舎の才二期工事は、去る九月一日着工していたが、工事は順調に進んで、去る十一月一日棟あげをおこなつた。

入選発表

道路愛護標語

町では去る九月、町内小中学生より、道路愛護についての標語を募集したが、審査の結果つぎのとおり入選がきまつた。

一等　よい道は皆でなおして
みんなで通る
柿岡小六年　川井悦子

二等　みんなで守ろうみんなの道を
小幡小五年　岩本隆之

全　水たまりながしてうめる心がけ
芦穂小三年　桜井国夫

全　庭の気持で道そうじ
恋瀬小五年　藤岡綾子

三等　ぼくたちは道でどろとねやらないよ
小幡小二年　金関ちえ子

全　道のガラスとでこぼこは一人一人の心がけ
芦穂小三年　水野則夫

全　前の道路も家の庭
芦穂小六年　山崎敬子

全　工事するより道路は愛護
小幡中一年　飯塚恒男

全　とわすななおそう我等が道路

瓦会中三年　眞家清

全　佳作　よい道はよい子が守つてよい町に
柿岡小五年　小松崎勝夫

全　よい道よい町よい子が通る
柿岡小五年　塚田勇

全　道路の小石投げるな取るな
片野小四年　大瀬勝夫

全　ガラスかけ捨てるなみんなの通る道
片野小四年　綿引あや子

全　道守るよい子はやがて町守る
小幡小六年　岡野佳雄

全　ひとりひとりが道ぶしん
恋瀬小五年　藤岡喜久枝

全　ぼくもてつだう道なおし
恋瀬小三年　久保田要

全　道路が待つている道ぶしん
林小五年　飯塚トシ

全　小石一つもけらずになげすいつもきれいな良い道路
小桜第二小五年　飯島たか子

全　往き帰りみんなで守ろうこの道を
瓦会中三年　大山芳男

永沢教授をむかえ

果樹適地を調査

町では地区農業改良普及所と協力、去る十一月四日、千葉大学園芸学部教授永沢博士をむかえ、果樹適地調査の実地指導をうけたが、同博士は、果樹の適地と将来性についておよそつぎのように語られた。

梨　土壌管理（堆厩肥の増施）がよければ、全町どこでもできる。品種は長十郎を主体とするが無難だろう。

柿　品種は富有がよいが、平均気温が摂氏十四度以上で秋暖かく、土壌の重い地帯によいものが出来、土地をえらぶが将来性はある。

ぶどう　量的には最も将来性があり、どこでも出来る当地方は少し雨が多いが適切な肥培管理をすれば有望であろう。

桃、みかん　地元消費以上には期待出来ない

栗　将来性があり、特に栗は支那栗が有望である。

果樹の将来性は十分あるが値下りも必至だから、生産コストの引下げと、販売体勢の確立が特に大切であろうと。

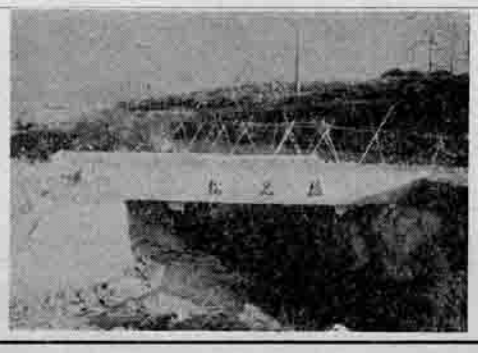
道路コンクールをひらく

町の道路は、皆さんの協力をいただいて、だんだんよくなつておりますが、その御苦労にむくゆるため、十一月下旬コンクールをひらくことになりました。その要領は、審査を受ける道路は、延長三百米以上、巾二・七米以上でなるべく側溝があるもの、ただし今年改良工事を行つた区間をのぞく。各支所毎に二線を選定し、十一月二十日までに土木課に申込むこと。

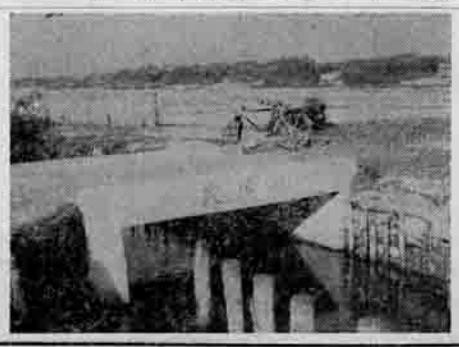
町長の委嘱する審査員が審査し、入賞部落には賞品をそえて表彰します。

近頃出来た橋

松見橋　半田と川又の間の旧道に新設。コンクリート橋



大境橋　金指地内に新設。コンクリート橋



○貯えありて　力あり
○ふえる貯金に　減る苦労
○励め　働け　まず貯金
○うつかりつかわず　しつかり貯金
○たゆまぬ貯金　ゆるがぬ家計

全国郷土 藝能大会に出演

眞家部落〝みたまおどり〟団

去る十一月二・三日の両日明治神宮外苑の日本青年館でもようされた全国郷土芸能大会に、真家部落の〝みたまおどり〟が出演し、大へんな好評をうけた。

この大会は、文部省芸術祭が主催し、古くからつたわつて、芸術的価値が高く、郷土色のゆたかないわゆる郷土芸能を保存し、振興させるためにおこなわれる才八回の大会で、今年は全国から七つの芸能が推せんされて、一般に公演されたものである。

真家部落では、保存会長の富田文五郎さんを中心に、全部落あげて準備をすすめていたが、当日は百六名の出演者がバス二台で上京参加したもの。なお、同会ではこの機会に靖国神社・明治神宮の両社におどりを奉納した。

写真（上）公演中のみたまおどり
（下）靖国神社奉納のみたまおどりのくりこみ

靖国神社の清掃奉仕

園部傷痍軍人会の本多要之助さんら篤志者十五名は、十一月二日早朝、みたまおどりの奉納前に、靖国神社境内の清掃奉仕をおこなつた。

無形文化財の指定を申請中

みたまおどり保存会では、去る九月、無形文化財指定を申請し、宮尾しげを画伯らの才一次審査を終つており、そのうち指定される見込みとのこと。

菊花品評会 入賞者

八郷町養菊会では、十一月一日より、柿岡なべや呉服店の庭で菊花品評会をひらいているが、上位入賞者はつぎのとおり。

○盆養の部
優等首席 小幡 金子 数男
〃 二席 菖蒲沢 久保田 栄太郎
〃 三席 片野 斉藤 清七郎
〃 四席 川又 木村 源
〃 五席 小幡 金子 数男

○切花太物の部
優等首席 小幡 桜井 徳行
〃 二席 片野 斉藤 清七郎
〃 三席 柿岡 菊地 万之助
〃 四席 片野 斉藤 清七郎
〃 五席 川又 川又 亥之助

○切花細物の部
優等首席 片野 斉藤 清七郎
〃 二席 太田 富田 雄太郎
〃 三席 小幡 桜井 徳行
〃 四席 太田 谷仲 福次
〃 五席 片野 斉藤 清七郎

八郷町 最近の家畜飼養の状況 (32、9、1現在)

地区別	乳牛	役肉牛 めす	役肉牛 おす	役肉牛 計	馬	豚	にわとり
	頭	頭	頭	頭	頭	頭	羽
柿岡	31	77	173	250	39	230	3,995
小幡	66	88	169	257	157	276	3,783
芦穂	46	64	130	194	267	108	3,895
恋瀬	127	114	100	214	194	155	4,491
瓦会	81	83	72	155	145	56	3,694
岡部	112	102	74	176	80	55	2,612
林	41	87	248	335	31	49	3,623
小桜	74	33	178	211	148	76	4,424
合計	578	648	1144	1792	1061	1005	30,517
昨年同期	473	790	1092	1882	1214	455	25,650

部落の横顔

真家

大字真家は、雖台山の南東の山すそにひらけた、およそ百九十戸の農村で、最近伝統の〝みたまおどり〟で全国的に知られたばかりでなく、色々の話題をもつている。

柿 特産としては、まず富有柿があげられる。昭和の始め頃、二、三の先覚者が小面積に試植した甘柿に実がなりはじめた昭和十年頃、部落の疲弊を回復するため、柿の栽培に目をつけた真家慶一さんら七、八名の人たちが柿畑二十町歩の造成と、東京出荷を目標に栽植したのに始まつた。現在では樹令二十年前後の柿園約十五町、植えたばかりの柿畑四、五町歩が菩竜寺池のまわりを中心に出来ている。経営規模は本多文雄さん、本多克巳さんの一町歩級を筆頭に、五反歩級がぞろりとそろつているが、これからどんどんふえることだろう。

山すその傾斜地より特によい実がとれ、毎年全国品評会に上位入賞しており、今年も例年のとおり陛下への献上をしたいと張り切つている人もある。

この部落に、経営改善モデル果樹園があり、視察者が非常に多い。

促成胡瓜 促成胡瓜も、この部落の誇りの一つである。約五十年前故真家信太郎氏らが中心となつて始めたもので、今でも毎冬五〇〇わく程の栽培があり東京市場に出荷されている。ここの胡瓜も年々本多守之助さんらによつて、献上されている。

米とみかん この部落には、四十年来年々県や全国の品評会によい米を出品して上位入賞している篤農家長谷川文之助さんらのグループがある。今年も全国品評会で大臣賞を獲得しようと張り切つている。

この部落の山すそには、いたるところふくれみかんの老木があるが、近年温州みかんも栽植されている。なかでも真家惣悦さんのみかん畑はすばらしいものだ。

共同集荷所 去年はこの部落に、鈴木新吉さんらの骨おりで、立派な共同集荷所が出来た。このように地の利に恵ぐまれ、先人の努力のつまれた部落はめづらしい。更に人の和と経営技術の改善とをすすめて、真家部落の名声をますますあげてほしいものだ。

筑波高原に〝湯袋研修所〟完成す

ところ

常総バス＝石岡―下館線、湯袋峠の湯袋停留所で下車広根場林道を登ること約七百米。標高約三五〇米の高原の一角にあつて、すばらしいながめです。

設備

研修寮は平家建、建坪三〇坪。炊事場、浴場、寝具（毛布）三〇名分、その他の研修宿泊の用具が完備しています。

使用規定のあらまし

❶利用希望者は、使用五日前に申請書を役場（調査課受付）に提出し、承認をうけて下さい。人員は十人乃至三十人迄。

❷使用承認を受けた時は、規定による使用料を前納していただきます。

昼間 五〇〇円
昼夜間 七〇〇円

宿泊には、きまつた使用料の外に、寝具代一人一泊につき五〇円を申しうけます

❸使用目的が公益に関する場合は、使用料を減免することもできます。

❹食事材料その他は使用者が携行して作ることを原則としますが、管理人がお手つだいも出来ます。管理人の援助を求める時は、一回につき百円と燃料は実費を申しうけます。

どうぞ ご遠慮なく ご利用下さい。

米の第二次予約

つぎのように、追加予約を受付けることになりました。ご協力をお願いいたします。

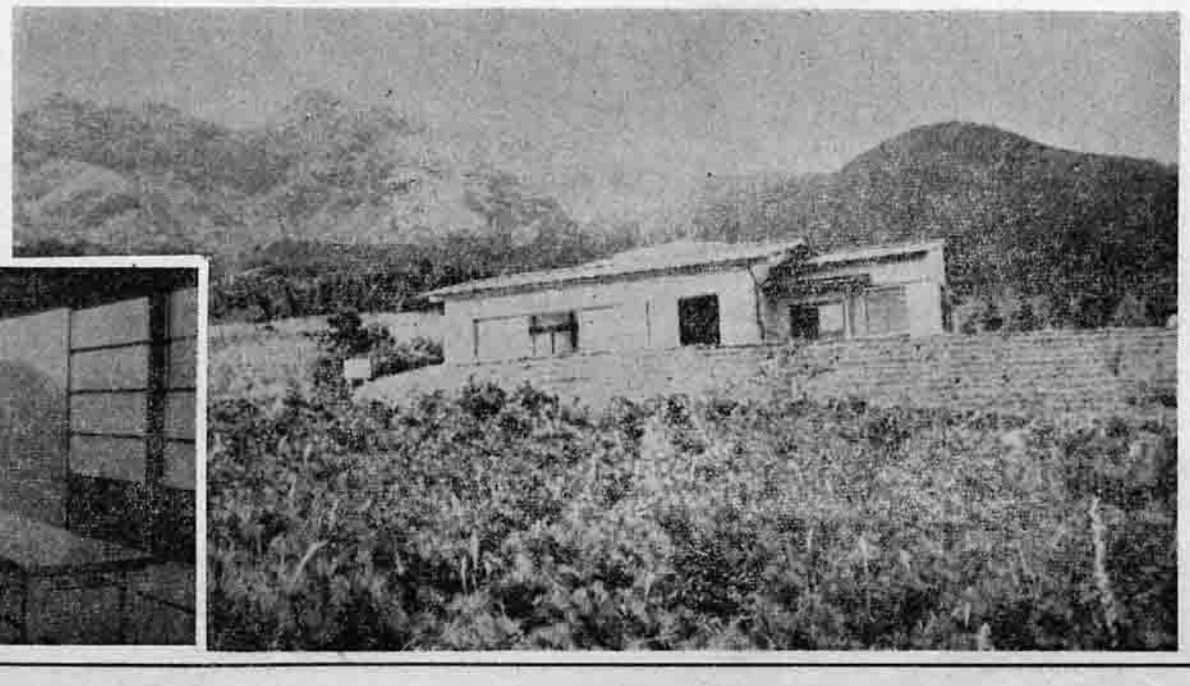
柿岡農協五七石、小幡農協七五石、芦穂農協七八石、恋瀬農協六二石、中田商店六石、瓦会農協六七石、園部農協九四石、林農協六九石、小桜農協六五石、関商店七石 計 五八〇石

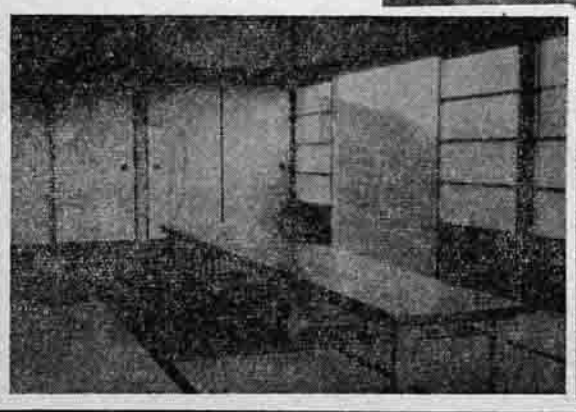
労務者募集

県土木部月岡砕石場では、道路補修用砕石の大増産のため、労務者の募集をしています。希望者は砕石場現場に申込まれたい。

高野君表彰

小幡の高野伊一郎君（十七才）は、さき程茨城県で募集した「働らく少年少女の生活文」に入選、県下五名の入選者とともに表彰された。





【写真】湯袋研修所全景とその内部、遠景は紅葉にもえるびようぶ岩